

# Partner

[パートナー]

Vol.15

2024.MAR

— 各診療科の医師が専門分野を伝える —

・腎臓内科部長・

## 佐藤 武志

食べる楽しみを大切にしたい

### 慢性腎臓病の 食事療法



・救急科部長・

## 金村 秀

病院に勤務する

### 院内救急救命士の役割



## 紹介患者さんの受診方法について

### 紹介状持参患者さん 予約取得フロー

各科緊急連絡先

小山記念病院では、地域の医療機関との連携を充実するために地域医療連携室を設置しており、他の医療機関からの紹介患者さんの対応、患者さんのお住いの近隣の医療機関への逆紹介を行っています。当院へご紹介の際は、患者さんに紹介状をご持参いただいた際の受診を推奨しておりますので、ご協力をお願いいたします。診療の経過や状況等の詳細は14日以内に担当医よりご報告をいたします。別途の追加の詳細をご希望される場合は、個別にご連絡ください。

医療機関より、下記にご連絡いただければ、  
地域医療連携室にて事前予約をお取りします。  
「受診予約申込書」と「診療情報提供書」(様式は問いません)を  
事前にFAXをお願いいたします。

《地域医療連携室直通 医療機関専用ダイヤル》  
TEL. **直通① 080-3249-8519** **直通② 080-3249-8529**  
FAX.0299-88-2211

予約なしで直接ご来院された際は、状況により当日診察をお受けできず、翌日以降のご予約をお取りさせていただく場合があります。

1 医療機関より地域医療連携室直通ダイヤルに、連絡をお願いします。

受付時間	月曜日～金曜日	9:00～17:00
	土曜日	9:00～12:00

2 受診予約申込書と紹介状をFAXで送信してください。  
FAX.0299-88-2211 (地域医療連携室直通)  
※FAX受信は24時間受付可能ですが、受付時間外の場合、予約取得は翌営業日の返信となります。

3 ・折り返し地域医療連携室より紹介元医療機関へご連絡をいたします。  
・予約を取得し診療予約票をFAXにて送信します。(できる限り15分以内にご連絡します)  
※診療科によっては、医師の確認が必要なため時間がかかる場合があります。

4 予約日に、診察予約票と紹介状原本をご持参いただき、  
11番「紹介状窓口」にご来院していただきますよう、  
ご案内をお願いいたします。

患者さん自身で予約取得

紹介状原本をお渡しいただき、  
紹介状予約患者さん専用ダイヤルのご案内をお願いします。

受付時間	月曜日～金曜日	9:00～17:00
	土曜日	9:00～12:00

TEL.0299-88-2233 (紹介状予約患者さん専用ダイヤル)

緊急の場合は、下記の医療機関専用ダイヤルへご連絡ください。

- ・脳神経外科ホットライン 080-8815-5322 (24時間対応)
  - ・循環器科ホットライン 080-1078-6668 (24時間対応)
  - ・整形外科ホットライン 080-9159-6089 (月～土/8:00～20:00 迄) 日・祝を除く
  - ・上記以外の診療科 0299-85-1133 (地域医療連携室直通)※
- ※月～金/9:00～16:00、土/9:00～11:00 日・祝を除く





救急科部長  
**金村 秀**

外科医長  
日本外科学会 専門医

ピックアップドクター

# Pick up Dr.



各診療科の医師が専門分野を伝える



腎臓内科部長  
**佐藤 武志**

## ● 食べる楽しみを大切にしたい 慢性腎臓病の食事療法

### ▶ 過度の食事制限に注意

普段慢性腎臓病の患者さん方と接していて、食事について感じていることをお話ししたいと思います。

慢性腎臓病が進行してしまうと透析を受けなくてはいけなくなってしまうので、『少しでも慢性腎臓病を悪化させないように』『透析を受けなくて済むように』と食事に気を付けられるのですが、過度の食事制限をされる方が特に高齢者で目立ちます。

その気持ちは非常に理解できるのですが、過度の食事制限をされると、栄養失調、衰弱につながってしまい、腎臓の機能を守るどころか、寿命を縮めてしまうことになりかねません。

慢性腎臓病の食事療法では、蛋白質とカリウムの制限が代表的なところですが、蛋白質と言えば肉、魚、豆類、乳製品など、カリウムと言えば野菜、果物などと、ほとんどの食べ物が制限にかかってしまい、食事療法を過度に

頑張ってしまうと必然的に栄養不足に陥ってしまいます。

特に高齢の慢性腎臓病患者さんには、食事制限はしないで、偏りなく色々なものを食べましょうと話すことが多いです。

塩分制限についても、味がまろくなるほどの制限は不要で、塩分が濃くないと美味しくない物は、『食べるな』ではなく、『食べるのを少量にしましょう』とお話しします。

慢性腎臓病は長期戦です。食べる楽しみを奪ってしまったては長続きしません。無理のない形で食事に気を付けていただければと思います。

### ▶ 透析患者に

#### ビュツフェ方式で食事を提供

次に当院での透析患者さんの食事についても少しお話しします。

当院では通院の透析患者さんの希望者に食事を提供していますが、新型コロナウイルスが出現する前までは、ワクワク

感、食事の楽しさを味わっていたのだと思います、月に1回ビュツフェ方式で食事を提供していました。透析患者さんにも食べ放題とは何かと思われるかもしれませんが、ビュツフェ方式で提供しても食べ過ぎてしまうことはなく、楽しく食べていただいていたと思います。最近新型コロナウイルスは落ち着く傾向にありますので、このビュツフェ方式の食事を提供を、2024年春頃に再開できればと考えています。

最後に、腎臓内科への受診のタイミングについてお伝えします。

- ① クレアチニン値 2mg/dl以上
- ② 尿蛋白 2+以上
- ③ 浮腫

右記の一つでも当てはまる患者さんがいらっしやいましたら、腎臓内科受診を勧めただければと思います。

これは、『腎臓内科の2の法則』と覚えていただければ幸いです。

### ▶ はじめに

高齢化社会に伴い救急搬送需要は年々増加している中、医師や看護師などの働き方も問題となっており、当院でも、長年救急隊からの直接電話対応・急患の電話対応・受け入れ体制の調節などを、一般事務や看護師が対応していましたが、苦慮する問題を多数認め、救急コーディネーターの設置が待ち望まれていた中、院内救急救命士の採用が実現できました。

### ▶ 救急救命士とは

急病が発生した場所から医療機関に搬送するまでの間、傷病者を観察し必要な処置を施すプレホスピタルケア(病院前救護)を担う医療国家資格です。2019年には全国の救急救命士登録数は6万1771人、そのうち2万3383人(37.9%)は消防機関

に属せず就業。2021年10月に救急救命士法が一部改正され、院内体制を整えた病院内にて入院するまで処置が可能となりました。

当院では、2020年3月より採用を開始。2023年11月現在、4名(男性3名・女性1名)が常勤しています。

### ▶ 院内救命士の業務内容

- ① 救急外来全体の統合、② 電話対応と重症度・緊急度判断、③ 院内受け入れ調整(医師の確保・看護師及び事務への連絡)、④ 医師・看護師の業務補助、⑤ カルテ代行入力・情報収集、⑥ 転院調整、⑦ 患者搬送、⑧ 受診相談窓口業務、⑨ 学校などへの救命講習、⑩ 急変時の対応補助など多岐に渡ります。

今後の展望としては、院内外での災害や防災訓練・DMATの所得・病院救急車搬送や整備・挿管実習を予定しています。

### ▶ 院内メディカルコントロール

救急救命士の質の保障を取り組む上で、指示・指導・助言・事後検証・教育を行うため、養成校の先生や消防隊の外部委員の方々にも加わっていただき、スキルアップを目指しています。

### ▶ まとめ

救急需要が増え続ける中、「断らない医療」実現においてタスクシフトが重要と考え、院内救急救命士が救急外来部門の業務を円滑かつ安全に遂行される上で、うまく機能しており、今後さらに業務の確立・拡大が予想されます。

## ● 病院に勤務する 院内救急救命士の役割

